

## 宮津市学力向上プラン（H30～H32）の進捗状況について

## ■『宮津市学力向上プラン（平成 30～32 年度）』（平成 30 年 2 月策定）に基づく取組

## ◆目標：質の高い学力の充実・向上

- 1 基礎・基本の徹底
- 2 言語活動を通じた表現力の育成
- 3 学習意欲の向上

- 宮津市が進める教育  
(教育振興計画、小中一貫教育推進基本計画)
- 小中学生の学力における状況と課題

## ◆具体の取組状況（主なもの）

## 【基礎・基本の徹底】⇒ 指導方法の工夫と授業改善

- ①算数・数学における学力サポートコーディネーターによる教科指導力の向上
  - ・市内 6 小学校への訪問指導
  - ・児童への指導補助、校長・指導者への授業改善に向けた指導ほか

## 【言語活動を通じた表現力の育成】⇒ コミュニケーション力と論理的思考力の育成

- ①語彙力向上を目指す「漢字能力検定」の活用
  - ・小学 4 年 7 級、小学 6 年 5 級、中学 2 年 4 級
  - ・年間を通じた漢字学習及び教科指導による言語力の育成
- ②外国語活動・英語科の授業づくりとコミュニケーション力の向上
  - ・新学習指導要領の先行実施による 5・6 年生 70 時間、3・4 年生 35 時間実施
  - ・小学校英語教育推進教員、小小連携加配などによる英語指導
- ③英語力を高める「英語検定」の活用
  - ・中学 1 年 5 級、中学 3 年 4 級
  - ・英語教育に係る意欲の向上、主体的な学習態度の育成
- ④宮津高校との連携による英語教育充実連携協働プロジェクト
  - ・教員の合同研究（公開授業、研修会、出前授業）による授業改善と実践力向上
  - ・体験活動等を通じた英語への意欲喚起

## 【学習意欲の向上】⇒ 学ぶ楽しさや分かる喜びの実感

- ①家庭と連携した学習習慣の定着
- ②中学校教員による乗入授業の推進

## ※小中一貫教育カリキュラムの作成と活用

国語、算数・数学、英語、保幼小接続、社会、理科、ふるさと宮津学

## ◆点検・評価（検証）

学力懇談会の実施（小・中学校長との懇談による成果と課題検証）

## 宮津市が進める教育

### ◆「宮津市教育振興計画」

#### 基本理念

『教育のまち みやづ』～豊かな心が育まれ文化が息づくまち～めざす人間像

- 知恵をつなぎ、自然・人・社会とつながる人
- 知恵を活かし、新しい価値を創り出して世界に発信する人
- ふるさと宮津への愛と誇りを持ち、明日の宮津を創る人

基本方針「明日の宮津を創る子どもの育成」に向けた質の高い学力の充実・向上

### ◆「宮津市小中一貫教育基本方針」

#### 「宮津市小中一貫教育推進基本計画」

就学前から中学校卒業までの10年間を見通した系統的な教育  
 ・10年間の系統性を重視した教育課程の編成による学力向上  
 ・長期的な視点での指導、教科の専門性を生かした授業

## 質の高い学力の充実・向上

### 目 標

- 1 基礎・基本の徹底
- 2 言語活動を通じた表現力の育成
- 3 学習意欲の向上

## 小中学生の学力における状況と課題

(全国学力・学習状況調査から)

- ・小学校では、質問の意味を読み取って答える国語の問題、示された数式の意味から考察する算数の問題に課題がある。
- ・中学校では、文章から必要な情報を読み取る国語の問題、筋道を立てて考え証明する問題に課題がある。
- ・授業において、学習のねらいやめあてを持たせ、達成感を得られる学習の定着が必要である。
- ・聞く力や話す力を伸ばすなど言葉を大切に学習や、他者の意見を聞いて自分の考えを広げる活動が必要である。
- ・学校以外での学習時間が少ない傾向があり、家庭学習の習慣を身に付けることが重要である。

### 質の高い学力とは

- 基礎的な知識及び技能
- 基礎的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む意欲・態度

### 目標を達成するための重点

- 教科指導(授業)において、学習のめあての提示、振り返りなどを明確にして、基礎・基本の徹底を図り、系統的・継続的な指導を進める。
- すべての教科等で言語活動を推進し、言語力・語彙力を高める。
- 主体的・対話的な学習により子どもたちが自ら考え、互いに意見交流できる授業を進める。
- 学習規律を身に付けて積極的に学習に取り組む姿勢を育てる。
- 家庭と連携して学習習慣の定着を図る。

### 新学習指導要領への対応

- 社会に開かれた教育課程の実現
- カリキュラム・マネジメントの確立
- 主体的・対話的で深い学びの実現
- 特別の教科 道徳
- 小学校 外国語活動・外国語科

## 学力向上を図る主な取組

### 基礎・基本の徹底

- 単元を通じた「身に付けたい力」の明確化(指導と評価の一体化)
- 算数・数学における分かる授業づくりの推進
- 学力サポートコーディネーターの設置  
小学校算数科における学力の定着と向上  
教員の授業力向上
- 小中一貫教育カリキュラムの作成と活用  
教科等カリキュラムによる系統的な教育活動
- 主体的・対話的で深い学びへの授業改善
- 特色ある学力向上の計画と実践  
各学校での課題解決をめざす効果ある取組

### 言語活動を通じた表現力の育成

- すべての教科等での「伝え合う力」「発表力」の育成
- 国語科を中心とした「ことばの力」の育成と読書活動の充実
- 語彙力向上を目指す「漢字能力検定」の活用  
前期(小4)7級、中期(小6)5級、後期(中2)4級
- 外国語活動・英語科の授業づくりとコミュニケーション力の向上
- 英語力を高める「英語検定」の活用  
中期(中1)5級、後期(中3)4級
- 小学校教諭の外国語活動・外国語科に係る実践力向上  
研修会・授業研究会の開催
- 就学前での「語彙力」向上

### 学習意欲の向上

- ねらいと振り返りを位置付けた授業づくり
- 意欲を引き出す家庭学習への指導と支援
- 家庭と連携した学習習慣の定着  
「家庭学習の手引き」等の活用
- 中学校教員による乗入授業の推進  
小学校算数・外国語活動の指導支援  
小学校での一部教科担任制指導
- 「ふるさとみやづ学」の実践  
学院での系統性のある取組  
「宮津ふるさと子ども検定」「中学校ふるさと検定」
- ICT機器を活用した授業の推進

平成30年度 学力向上プラン等、学力の充実・向上の取組状況について(検証)

平成31年1月

プラン等	目標	主な取組	検証方法	取組状況	成果と課題
学 力 向 上 プ ラ ン	基礎・基本の徹底	単元を通した「身に付けたい力」の明確化	・授業参観 ・学力懇談会(校長ヒアリング) ・市学力向上対策委員会での協議	・各授業での「ねらい」の提示(板書、口頭指導) ・授業終了時での学習活動(内容)の振り返り ・単元指導計画、単元構想表の改善と活用	○各学校において、「本時のねらい(目標・めあて)」の板書による提示と児童生徒への指示が常態化。 ○授業終了前に「授業の振り返り」時間を設定し、めあてに対する成果を確認。 ○授業形態(授業の流れ)を明確にしたことによる指導方法の定着。
		算数・数学における分かる授業づくりの推進	・学力懇談会(校長ヒアリング) ・サポートコーディネーターからの報告 ・各種テストの結果分析	・各学校での授業研究会、校内研修の実施 ・4小連携での6年算数授業研究会の開催(9月) ・学院での授業改善に向けた研修の実施	●全国調査において「算数(数学)が好き」と答えた割合は府・全国平均を上回る。しかし、小学校「算数の授業がよく分かる」と答えた割合は府・全国を下回る。 ●低学年から分かる喜びを感じさせる指導、教え切る指導、個々の課題の見立てが必要。
		学力サポートコーディネーターの設置(教科指導力の向上)	・学力懇談会(校長ヒアリング) ・サポートコーディネーターからの報告 ・各種テストの結果分析	・サポーター派遣 1学期:小学校36日、中学校2日 2学期:小学校50日 ・校内研修での指導助言:小学校5校 ・授業での指導補助、示範授業、参観後の直接指導及び校長指導	○教科指導への助言により、指導者の意識改善及び指導の見直しが進展。 ●個別指導、グループ指導、校内研修など計画的、焦点的な指導が必要。更なるコーディネートが必要。 ●学力分析、実態把握、授業展開の改善など、教員の一層の意識改革が課題。
		小中一貫教育カリキュラムの作成と活用	・学院経営委員会、4小連携校長会での聴取	・国語、算数数学、英語カリキュラムの活用 ・社会、理科カリキュラムの作成	●授業計画の策定や授業の振り返り、課題追求の機会においてカリキュラムの活用は不十分。 ●カリキュラム活用の具体的事例や方法を示すことが必要。 ●校内研修等での活用、カリキュラムの見直し・改善などが今後の課題。
		主体的・対話的で深い学びへの授業改善	・授業参観 ・学校訪問(校長懇談) ・学力懇談会(校長ヒアリング)	・各学校での授業研究会、校内研修の実施 ・4小連携での6年算数授業研究会の開催(9月) ・市学力向上対策委員会での研究協議と指導助言	○各学校で新学習指導要領の趣旨に基づく授業の探究(指導と評価の研究)が進展。 ○市学力向上対策委員会での実践交流と研究協議、指導主事による助言により「学びの連続性」を踏まえた授業改善が進展。
		特色ある学力向上の計画と実践	・学力懇談会(校長ヒアリング)	・各校での「学力向上対策費」に基づく学力充実(基礎基本の徹底)	○学力懇談会において本年度の進捗状況、学力向上につながる成果を聴き取りと同時に次年度に向けた各校の特色ある学力対策について校長の方針を確認。 ●各校での学力向上システムに基づく具体的方策の実現が課題。
	言語活動を通して表現力の育成	すべての教科等での「伝え合う力」「発表力」の育成	・授業参観 ・学校訪問(校長懇談) ・学力懇談会(校長ヒアリング)	・小学校学習発表会、中学校文化祭での学習成果の発表 ・言語活動の充実に向けた校内研修の実施	○各教科での言語活動が活性化。 ●自校での言語力の共通理解、教科間の学習連携が今後の課題。 ●相手(聞き手、読み手)を意識した表現力・発信力の育成が必要。
		国語科を中心とした「ことばの力」の育成と読書活動の充実	・授業参観 ・学力懇談会(校長ヒアリング) ・小論文コンクール、読書感想文コンクール	・中学校:小論文コンテスト応募、市主張大会に向けた取組 ・朝読書、図書館教育を通じた読書活動の実施	○国語科での「読むこと」の指導を中心に、言語活動が充実。 ●他教科への波及が今後の課題。
		語彙力向上を目指す「漢字能力検定」の活用	・検定結果分析 ・各種テストの結果分析	・小学校:4年・6年(1月実施)での検定全員受験 ・中学校:2年(1月実施)での検定全員受験	●思考、判断、表現の基礎となる語彙力(語彙数の増加、適切な語彙の使用等)の向上が必要。
		外国語活動・英語科の授業づくりとコミュニケーション力の向上	・学力懇談会(校長ヒアリング) ・英語教育担当者会議での聴取	・小学3・4年35H、5・6年70Hの先行実施による英語の充実 ・英語教育担当者会議(教員3名、指導主事)の定例化(月1回)による状況交流と計画実践の共通理解 ・宮津高校との連携協働による授業研究	○専科教員、小小連携加配等の指導による学習意欲の向上(専科教員:宮津小・吉津小、小小連携加配:府中小・日置小・養老小) ●教員の指導力向上に対するリーダーシップが必要。 ○小学校外国語科・外国語活動は新学習指導要領に対応し、授業時数は先行実施。
学習意欲の向上	英語力を高める「英語検定」の活用	・検定結果分析 ・各種テストの結果分析	・中学校:1年(2月実施)、3年(10月実施)での検定全員受験	○準2級取得3名、3級取得31名、4級取得17名、5級取得3名。 ●中学校3年:4級以上取得者51名(市内3年生の54.3%) ○上位級への受検が増加。	
	小学校教諭の外国語活動・外国語科に係る実践力向上	・授業研究会(研修会) ・英語教育担当者会議での聴取	・公開授業の開催による指導方法の研究 ・指導交流を踏まえた教材開発 ・4小学校における連携学習(外国語活動)の実施(3, 4, 5, 6年)	○専科教員や小小連携加配、中学校英語科教員による実践から指導方法を吸収し、英語活動・英語科の授業づくりと児童のコミュニケーション力が向上。 ●専科教員配置校での更なる教員の意識向上が課題。	
	就学前での「語彙力」向上	・保幼連携会議での聴取 ・幼稚園長との懇談	・まなびスタート調査研修会(8月22日)の開催 ・教育局主催研修会への参加(意見交換)	●子どもの実態に即したアプローチ及びスタートカリキュラムの実践的な追究と検証が必要。 ●小学校での幼児教育に係る一層の理解が課題。 ●就学前施設での語彙力向上を意識した取組が必要。	
	ねらいと振り返りを位置付けた授業づくり	・授業参観 ・学校訪問(校長懇談) ・学力懇談会(校長ヒアリング)	・各学校での授業研究、校内研修の実施 ・実践開発プロジェクトでの「目標・指導・評価の一体化」	○目標と指導と評価の一体化を意識した単元構成や学力実態を踏まえた時間配分、各時間における指導の焦点化や展開の工夫が進展。授業づくりと学級経営の相関が浸透。 ○授業を通して児童生徒の居場所づくりが進み、生徒指導上の課題を克服。	
	意欲を引き出す家庭学習への指導と支援	・学校訪問(校長懇談) ・学力懇談会(校長ヒアリング)	・各学校における家庭との連携、学習方法の改善 ・「家庭学習の手引き」の活用(指導)	○「家庭学習の手引き」を活用した支援の実施。 ●学習課題を与え家庭学習を定着させる指導が引き続き課題。	
	家庭と連携した学習習慣の定着	・学校訪問(校長懇談) ・学力懇談会(校長ヒアリング)	・各学校における家庭との連携、学習方法の改善	○家庭学習ががんばり週間の設定、学習時間の記録、自主学習ノートの提出。 ○「学力向上通信」の発行による保護者への啓発。 ●取組の成果と課題を学校として検証し、具体的な手立てを構築することが必要。	
その他	宮津高校との連携による英語教育充実連携協働プロジェクト	・プロジェクト会議 ・公開授業 ・研究協議	・6月15日、第1回会議:連携内容や今後の進め方について研究協議 ・7月4日、合同研修会:公開授業(吉津小6年英語活動)、小・中・高交流 ・10月23日、合同研修会:公開授業(宮津中英語)、小・中・高交流 ・11月15日、ネルソン市への高校生訪問団報告会(参加者との交流) ・11月16日、合同研修会:公開授業(宮津高1・2年英語)、小・中・高交流 ・1月23日、合同研修会:公開授業(栗田小英語活動)、小・中・高交流	○小中高、それぞれの校種で公開授業を行い、英語教育の実態を共有。 ○小中高連携を基に英語力向上について課題の明確化。今後の対策と方向性の協議が進展。 ○中高連携の進展による中学校英語指導の更なる充実が課題。 ●新学習指導要領による教育活動に向けて、各校種の教材研究と開発。使用教材の活用について研究と修正。 ●小中一貫教育における各ステージでの学習意欲の向上。目標の明確化。	
	龍谷大との連携による理科教育充実実践研究	・授業公開 ・実践研究会	・6月25日、大学教授との事前協議(事務局・研究校・研究員との協議) ・9月21日、授業研究会:公開授業、事後研究会(教授、研究員) ・10月以降、研究校(宮津中学校)での実践研究	●小中一貫教育における理科モデルカリキュラムの作成。 ●教材開発による授業深化と改善が課題。	

学校施設整備年次計画〔箇所付け〕

平成29年8月策定

		教育振興計画						第2次教育振興計画						
		子ども・子育て支援事業計画			第2次子ども・子育て支援事業計画									
	整備率	H28	H29	H30	H31	H32	整備率	（教育振興計画目標）	H33	H34	H35	H36	H37	整備率
構造耐震化	90.3%	宮津小改築	▼ 養老中閉校 宮津小改築 → 完成	▼ 小中一貫（栗田試行） ▼ 中学校給食開始	▼ 小中一貫（栗田実施・宮津試行）	▼ 小中一貫（完全実施）	100.0%	100.0%						100.0%
非構造部材耐震化	整備方針	体育館天井等の耐震化								外壁等の耐震化				
	小学校			宮津小（体育館）	吉津小（体育館） 府中小（体育館）		66.7%	42.0%	府中小（校舎）					100.0%
	中学校				宮津中（給水設備）				宮津中（体育館） 栗田中（校舎）					
	幼稚園						42.9%	-	宮津幼（園舎）					100.0%
トイレ洋式化	整備方針	児童用・教職員用 100%整備								・車椅子登校児童があった場合は多目的トイレを緊急対応します。				
	小学校		府中小	宮津小（南校舎）		栗田小 吉津小 府中小	100.0%	-						100.0%
	中学校					宮津中 栗田中	100.0%	-						100.0%
	幼・保		養老保	養老保	宮津幼 栗田幼		100.0%	100.0%						100.0%
エアコン設置	整備方針	普通教室 100%整備								特別教室 100%整備				
	小学校			宮津小（南校舎）	前倒し実施	栗田小 吉津小 府中小 + 日置小 + 養老小	83.9%	53.0%	栗田小 吉津小 府中小					100.0%
	中学校			宮津中 栗田中			45.7%	44.0%	宮津中 栗田中					100.0%
	幼稚園					宮津幼 栗田幼	100.0%	100.0%						100.0%
放課後児童対策（放課後児童クラブ）	1箇所			栗田小〔新設〕 府中小〔校内へ移設等〕	吉津小〔校内へ移設〕		4箇所	3箇所					4箇所	
給食配膳室	0箇所		栗田小 宮津中 栗田中	宮津小 吉津小 府中小			6箇所	-					6箇所	

・校舎の長寿命化対策等  
・屋外運動場環境整備等

▼ 計画の趣旨

宮津市教育振興計画（～平成 32 年度）、宮津市子ども・子育て支援事業計画（～平成 31 年度）等に基づき、設備投資等の学校施設整備を進めるための年次計画として定めたものです。

※ 国交付金等の財源を年次的に確保するための計画として位置付けます。

※ 第 2 次学校再編計画の対象校（日置小、養老小）は、再編協議中であり設備投資は見合わせることにしていることから、本計画の対象としておりません。

▼ 現状及び整備方針等

	現 状 ※ 特段記載のない整備率は平成 29 年度の数値	整備方針	概算費用 (億円)	H32 までに対応するもの	H33 以降に対応するもの
耐震化	<ul style="list-style-type: none"> <li>構造体の耐震化率は宮津小学校校舎改築完了をもって 100%となりますが、非構造部材の耐震化率は 31.4%にとどまっています。</li> </ul> ※ 非構造部材耐震化率〔小中学校〕 H29：28.6%（8 箇所/28 箇所） H28 府内順位 17/25 位	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で安心な環境整備として、全て耐震化します。</li> </ul>	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館天井等の耐震化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外壁等の耐震化</li> </ul>
トイレ洋式化	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体整備率は 20.6%で、児童用は教室棟 1 階の概ね半分、教職員用は 13.9%にとどまっています。</li> </ul> ※ 児童用トイレ洋式化率〔小中学校〕 H29：21.2%（55 基/260 基） H28 府内順位 25/25 位	<ul style="list-style-type: none"> <li>和式利用に慣れていない児童、生徒が大半の中で、全て洋式化します。</li> </ul>	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童用 100%整備</li> <li>教職員用 100%整備</li> </ul>	
エアコン設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体整備率は 31.8%で、普通教室は 2.5%（小中学校は 0%）、特別教室は 21.3%（小中学校は 19.5%）にとどまり、職員室等は概ね 100%となっています。</li> </ul> ※ 普通教室・特別教室のエアコン設置率〔小中学校〕 H29：10.8%（17 室/157 室） H29 府内順位 25/25 位	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏期の健康保持、学力向上のため、勉強に専念できる環境整備として、全ての教室にエアコンを設置します。</li> </ul>	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通教室 100%整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別教室 100%整備</li> </ul>
放課後児童対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 小学校区のうち 3 小学校区で放課後児童クラブを実施しています。</li> <li>学校内での実施は 1 校区のみとなっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての小学校区において市が実施主体となり、学校内で実施することとし、所要の整備を行います。</li> </ul>	1.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設、移設 3 校整備</li> </ul>	
給食配膳室	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年度 2 学期からセンター方式給食を導入することとしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター方式で給食を提供する学校に配膳室を整備します。</li> </ul>	1.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>配膳室 6 校整備</li> </ul>	
概算費用 合計			10.8		<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎の長寿命化対策等</li> <li>屋外運動場環境整備等</li> </ul>